

## 「187人の歴史家声明」に対する応答と提案

2015年6月12日  
拓殖大学客員教授 藤岡信勝

声明署名者187人の歴史家の皆様へ

5月5日、「日本の歴史家を支持する声明」が公表され、たちどころに世界中に広がりました。声明には、アメリカと西洋諸国の歴史家と日本研究者187人の署名があり、第二次世界大戦までの日本軍慰安婦制度を指弾するものでした。声明は、あからさまではないにせよ、日本の総理大臣の謝罪を求めていることが透けて見えるものでした。

\*注記 その後、署名者は5月末現在460人程度に増えましたが、当初の人数を尊重して宛名を変更しません。

私は日本国民の一人として、この声明を真摯に受けとめた上で、率直な意見を述べてみたいと思います。以下の見解は、日本のいかなる機関や組織も代表するものではなく、あくまで、1992年以来慰安婦問題を注視してきた私個人の見解であることをお断りしておきます。

### ●落胆と希望と

皆様の声明に接した私は、自分の中で、2つの異なる思いが交錯するのを感じました。一つは落胆であり、一つは好機到来の希望でした。

まず、落胆の事情から書きます。署名した187人の歴史家・日本研究家の中には、日本でも著名な、尊敬すべき方々が数多く含まれております。それらの方々の著作は日本語に翻訳され、日本の研究者や一般読者に多くの感銘と影響を与えてきました。

すぐに思い出す日本語の翻訳書の著者と書名をランダムにあげてみると、エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』、ジョン・ダワー『人種偏見』、アンドルー・ゴードン『日本の200年』、ロナルド・ドーア『江戸時代の教育』などです。この中には、実のところ出身地の本国でよりも日本でより多くの読者を獲得した書物も含まれています。

こうした方々が含まれているだけに、この声明は重みを増しているように思われますが、それによって声明が多く日本人に受け入れられるはずだとお考えだとしたら、それは日本における現状を大きく見誤ったものと申し上げざるを得ません。

と申しますのは、多数の日本国民が、すでに慰安婦問題なるものについて理解してしまったからです。それは日本を政治的に非難するために捏造された問題であり、その問題をもとにした日本非難には事実の裏付けがないことが、特に昨年八月の、朝日新聞の32年間にわたる誤報記事の取り消しによって、誰の目にも明らかとなりました。

ですから、声明を読んでも、多少の知識のある日本人なら、特別の学究の徒ではない市井のサラリーマンや主婦でさえ、皆様の声明が誤った事実認識に基礎をおいて書かれているという感じを持つようになっていくのです。

しかし、ここで私の中に起こったもう一つの感情、すなわち好機到来という思いについて書く必要があります。すでに述べたように、アメリカの「日本研究者」よりも、日本の、多少とも啓蒙された国民のほうが、慰安婦問題の真相を知っているということは、太平洋を挟んだ両国の間に、特定のテーマに関して巨大な「情報ギャップ」が生じているということを意味します。

私は声明文の署名者の全員が、日本に対する偏見と悪意をもって賛同したとは必ずしも受け取ってはおりません。声明文には、日本に対する偏見に陥らず、公正な立場を貫き、普遍的な価値に根ざそうとする配慮のあとが明瞭に見てとれます。声明は次のように書いています。

「戦後日本が守ってきた民主主義、自衛隊への文民統制、警察権の節度ある運用と、政治的な寛容さは、日本が科学に貢献し他国に寛大な援助を行ってきたことと合わせ、全てが世界の祝福に値するものです」

声明の署名者達が、戦後の日本の世界に対する平和的な貢献について、このように評価して下さったことに、日本人の一人として感謝の気持ちを表したいと思います。

声明は全体として、自由、民主主義、人権、などの普遍的な価値に根ざす立場にたっています。それらについては全く同感であり、これらの理念こそ、今、最も大切にしなければならぬものです。だからこそ、間違った事実認識に基づく独断や偏見を排除することは、公平・公正な立場を堅持しようとする人の義務でもあります。

そこで、日米間の情報ギャップが露わになったこの声明は、そのギャップを埋めるための絶好の機会を提供するものでもあるのです。私のこの手紙も、その情報ギャップを埋めるささやかな一助になることを願って発信されるものです。

### ●マグローヒル社の教科書の誤り

情報ギャップの一例が今年の11月と12月に露呈しました。日本政府は、アメリカの高校生が使っているマグローヒル社の世界史教科書『伝統と邂逅』に掲載された日本軍の「慰安婦」についての記述が極めて不適切である、として訂正を求めたのです。それに反発したアメリカの歴史家19人は、アメリカの学会誌に投書し、日本政府の動きを批判しました。

3月17日、アメリカの19人の歴史家に応えて、日本の19人の歴史家が、マグローヒル社の教科書の「慰安婦」記述における事実の間違いを指摘し、それを正すように出版社に求める鄭重な訂正勧告を行いました。

慰安婦問題研究の第一人者・秦郁彦が代表となったその声明文では、8件に限定して誤りを指摘しました。そのうちの4件をここで紹介してみます。

(1) 教科書は、「強制的に慰安婦にされたり、徴用されたりした」と書いていますが、19人の歴史家が、連帯する相手方の日本の歴史家として唯一名前を挙げた吉見義明は、日本のテレビの討論番組で、「朝鮮半島における強制連行の証拠はない」と述べています。アメリカの19人の歴史家たちは大きな勘違いをしているようです。

(2) 慰安婦の数として教科書は「20万人もの女性」と書いています。しかし、秦郁彦教授は、日本の関係機関の統計などの資料に基づいて、2万人程度と推定しています。

(3) 教科書は、「慰安婦が毎日20人～30人の男性を相手にした」と書いています。ところで、教科書によれば、慰安婦の総数は20万人でした。そうすると、日本軍は毎日、400万回～600万回の性的奉仕を調達したことになります。他方、日本陸軍の海外兵力は、戦争まっさかりの1943年で100万人でした。教科書に従えば、彼等は全員が「毎日、4回～6回」慰安所に通ったことになります。これでは戦闘準備をする時間はおろか、まともに生活する暇もなくなります。

(4) 教科書は、戦争が終わると日本軍は、証拠隠滅のために「多数の慰安婦を大虐殺した」と書いています。この記述の根拠史料は何なのかが問われます。もしそういうことがあれば、東京裁判や各地のBC級軍事裁判で裁かれているはずですが、そういう記録はありません。何人を、いつ、どこで殺害したか、証拠がなければ教科書に書くことが適切でないのは言うまでもありません。証拠がないものを疑う余地のない歴史的事実として記述し、アメリカの生徒に教えることは、史実の追求ではなく、特定のプロパガンダを植え付けることになり、学問の自由にも思想の自由にも反していると思われるます。

私も署名した訂正勧告文書は、マグローヒル社に直ちに送付しました。しかし、未だに同社からの回答がありません。ところが、5月16日付の産経新聞によれば、同紙の特派員の質問に対し、マグローヒル社は、「訂正しない」旨の回答をしたとのことです。同社は著名な日本の歴史家が提示した事実に向き合う努力を全くしていません。だから、日本人から見れば嘘としか言えないことをアメリカの高校生に教えることに日本政府として異議を唱えるのは当然のことです。

私達の訂正勧告は、アメリカの教科書会社を改心させるに至っていませんが、さすがに学者の皆様には多少の影響を与えたものと見えます。というのは、19人の文書にあった「国営性奴隷制」という言葉が、187人の声明では消えているからです。教科書にあった「20万人」という数字も登場しません。19人は教科書の「20万人」という数字を含む慰安婦に関する記述を変えさせてはならない、と抗議していたのですから重要な変化です。

## ●軍の「組織的管理」の成果

良識的判断の方向に向けての上記のような前進があるにもかかわらず、今度の声明でも、海外の学者の皆様の、日本の慰安婦制度についての理解は、基本的には変わっていません。その理解の核心は、次の一節に表現されています。

《20世紀に繰り広げられた数々の戦時における性的暴力と軍隊にまつわる売春のなかでも、「慰安婦」制度はその規模の大きさと、軍隊による組織的な管理が行われたという点において、そして、日本の植民地と占領地から、貧しく弱い立場にいた女性を搾取したという点において、特筆すべきものであります。》

一国をこのように断定して非難の対象とするからには、よほど慎重な事実の検討と、比較作業の積み重ねが必要です。質問しますが、皆様方はそのような慎重な作業をなさ

ったのですか。この点に光を当てるため、声明の主張のいくつかを選んで、それを別の観点から検討してみたいと思います。

第一に、規模についていえば、すでに話題にしたように、日本軍の慰安婦制度のもとで働いていた女性の数は20万人だったのか、2万人だったのか、という事実をめぐる論争があります。これについて、声明は「恐らく、永久に正確な数字が確定することはないでしょう」と述べて、それ以上の追求を放棄しています。数字が確定しないのであれば、どうして日本の慰安婦が規模において特筆すべきものだという断定が可能なのですか。

第二に、「軍隊による組織的な管理」は誤解を与える表現です。日本の慰安婦は遊郭を経営する業者に雇われていました。慰安婦の仕事は過酷ではあったでしょうが、それに見合った高給が支払われていました。上等兵の月給が10円の時代に、ビルマでは平均月収750円でした。1年働けば、国元の親のために、家を何軒も買ってやる事が出来るほどでした。平時の遊郭が戦地にまで営業地を延長したのが、日本軍の慰安婦制度の実質です。慰安所の顧客は日本軍の兵士達でした。

慰安婦が性奴隷ではなく、賃金を受け取っていた売春婦であることは、米軍の正式な報告書がハッキリと認めています。アメリカ戦時情報局心理作戦班のビルマ戦線における捕虜の尋問調書第49号は、「『慰安婦』とは売春婦以外のなにものでもなく、兵士のために日本軍に付属する『職業的追軍娼婦』であった」と冒頭に書いています。

軍隊が関与したのは、以下の3点、すなわち、慰安所の設置についての業者に対する認可と契約、慰安所の規則の制定、軍医による定期的な健康検査の実施です。慰安所の規則を軍が関与して制定したのは、強欲な業者の専横を抑え、慰安婦の権利を守るためでした。軍が関与しなければ、慰安婦の労働条件はもっと劣悪なものになっていたでしょう。軍と業者の間、業者と慰安婦の間はいずれも契約関係にあり、公娼制度が存在した当時の法律に照らして合法的なシステムでした。

慰安所設置の目的は2つあり、戦場における兵士の性欲処理をすることによって現地の女性に被害を与える可能性を取り除くことと、兵士が既存の売春施設を利用することで性病に罹患するのを防止することでした。

軍の関与があること自体を、前例のない許しがたい方針と見なす傾向がアメリカの歴史家にはあるようです。アメリカは現地の既存の施設を利用するのを常としていました。たとえば、ハワイには「ホテルストリート」と呼ばれる売春地帯があり、サンフランシ

スコから運ばれてきた売春婦達が、一日100人の客をとらされていました。また、アメリカは、戦後の日本占領期でも日本政府が米兵のためにつくった売春施設を利用しました。同様に、朝鮮戦争以来の駐韓米軍も韓国政府がつくった現地の施設を利用しました。

しかし、これはその国の慣習の違いにすぎず、戦場の兵士の性欲処理の機能を果たすものであることに変わりはありません。日本の慰安婦制度は、第一次世界大戦におけるドイツの制度を原型としたものです。様々な性欲処理方式のうち、自国の特定の方式だけを絶対化して、その方式と異なる方式を採用している国を批判するのは、素朴な自国中心主義の誤りです。

比較論として言えば、アメリカ式現地調達方式には、性病にかかる危険があるという弱点があります。例えば、1940年代の初めに中国の昆明にあった米軍基地では、現地の売春施設を利用したために、兵士や整備工の半数近くが性病にかかって動けなくなりました。また、アメリカはベトナム戦争のような過酷な戦場で、既存の施設が得られない場合には、事実上軍直営の施設をつくっています。

日本の慰安婦制度が所期の目的をほぼ達成したことは、現地での強姦事件が殆どなかったこと、また、現地の女性との混血児を残していないこと、などに表れています。

これに対して、日本を占領した米軍は日本女性との間に多数の混血児を残しました。ベトナム戦争で、韓国兵は現地にライダイハンと呼ばれる混血児を残しました。その数、数万と言われています。

視野を第二次大戦中に戻せば、最大規模の強姦事件は、ソ連のベルリン侵攻時に起こりました。約100万人のドイツ人女性がソ連兵により強姦され、その被害女性の20万人が亡くなったといわれています。また、多数のソ連兵の子供が強姦によって生まれました。ソ連は満州でも日本人女性多数を強姦し、殺戮しています。20世紀の性犯罪としては、これらのほうが遙かに巨大で深刻なのに、なぜ皆様はこの歴史を論じないのでしょうか。

比較の上で、日本人男性が特筆すべき強い性欲の持ち主でないことだけは確かです。その種の比較データによれば、いつも日本人男性は世界で最下位クラスに位置します。

## ●残虐話の嘘と証言の信憑性

第三にとりあげたいのは、声明が「『慰安婦』制度が際立っていたのは・・・日本の植民地と占領地から、貧しく弱い立場にいた女性を搾取したという点であった」と主張していることです。ここにも大きな誤解があります。日本軍の慰安婦は、多数が日本人売春婦によって占められていました。秦郁彦の試算では、慰安婦の出身地は、日本人4、現地人3、朝鮮人2、その他1、という割合になっています。日本と朝鮮の人口比に見合っています。

これらの女性が貧しく弱い立場にいたことは確かでしょう。個々のケースを想像すれば、誰についても同情の余地があります。しかし、彼女らの境遇をことさら過酷に、非人間的な境遇に置かれたかのように思い込むのも適切ではありません。そういうことを言えば、平時の遊郭で働く女性も、貧しく弱い立場にいたのです。軍隊はむしろ恵まれた環境として志願した慰安婦もいたし、戦地にいた時のほうが平時の遊郭よりも楽しかったと回想する元慰安婦もいるのです。

第四に、そしてこれが最後になりますが、声明に署名した学者の皆様が影響を受けていると考えざるを得ない一つの論点について申し上げます。それは、戦時性暴力に関する元慰安婦の「証言」の信憑性についてです。皆様の声明では、日本軍の慰安所でとんでもない残虐な行為が行われ、慰安婦は性暴力の犠牲者であったと信じている節が見受けられます。声明は慰安婦に対する「残虐行為」という言葉を使い、彼女達は軍による「恐ろしい残虐行為にさらされた」と書いています。

1996年、国連の人権委員会は「クマラスワミ報告」を承認しました。その中には、北朝鮮の元慰安婦と称するチョン・オクスンの次のような証言が含まれています。

《[日本兵は] 慰安婦を全裸にし、両手両足を縛り上げ、沢山のクギを打ち付けた板の上を転がして、肉がクギに食い込んで平らになるまで拷問を続けた。最後には、彼等は彼女の首を切り落とした。山本という別の日本人が私達に言った・・・「こいつら朝鮮人の女が泣いているのはものを食べていないからだ、人肉を煮て食べろ」》

こうした話を聞けば、日本人なら一笑に付します。日本人にはこうした猟奇的な趣味はなく、人肉食の習慣もありません。この類いの話は中国の史書にふんだんに載っているもので、朝鮮半島は中国文化圏に属します。元慰安婦は中国文化圏で共有されている知識をもとに語ったのです。

2007年に可決したアメリカ下院の決議には、「四肢切断」が日本軍による残虐行為の一つとして挙げられています。四肢切断は中国の後宮で行われた恐ろしい習慣で、

日本には全く形跡のないことです。皆様が本当に日本の歴史や文化の専門家でいらっしゃったら、すぐに賛成いただけるはずですよ。

朝鮮半島の慰安婦の証言者が初めて名乗り出たのは、戦後40年以上経過した後の1991年で、それ以来証言者は50人を超えています。しかし、その中の誰一人として、強制連行されたことを矛盾なく述べた人物はいないのです。中には、「慰安所にジープで連れられていった」、「クリスマスの前後は特に忙しかった」などと証言している元慰安婦もいます。日本軍にはジープもクリスマスを祝う習慣もありませんでしたから、この場合、「加害者」は、日本兵ではなく、米兵という結論にならざるを得ません。

ですから、慰安婦の証言を、心に訴えるものがあるからといって証拠採用することは、法の支配が行われている社会では許されることではありません。日本に対する検証されていない証言をばらまくことは、日本人差別という以外に言いようがありません。

#### ●学術的討論の開催を提案する

声明の署名者達は、この世から性暴力をなくし、人権が尊重される世界をつくろうとする希望を抱いています。その動機を疑う理由はありません。実際、私はその主張を共有し、完全に支持します。しかし、そうであれば、なぜ、署名者たちが、70年以上前に存在しなくなった日本の慰安婦制度だけをことさら取り上げて糾弾の対象とするのか理解に苦しみます。

今現在、東南アジアの貧しい少女がアメリカを含む各地に売られ、性暴力にさらされている現実があります。中国はチベットやウイグル地区で大規模な民族弾圧を行い、その中には女性への暴力も含まれています。北朝鮮では政治犯収容所などでさまざまに性的迫害が行われています。最近起こったネパールの地震では、業者が暗躍し、1万5千人の少女をインド、韓国などに売り飛ばしているとイギリスのメディアが報道しています。

本当に性暴力のない世界をつくろうと考えるなら、現在進行中のこの事態を食い止める活動のほうが、はるかに緊急を要するのではないのでしょうか。そのためには、日本は資金援助も人道援助も行うでしょう。現に今、この瞬間にも起こっている女性の人権侵害よりも、70年以上前の、なかったかも知れない日本軍の女性の虐待のほうが重要だという理由が何かあるのですか。この声明が、声明の中で批判されている中国や韓国の「民族主義的暴言」の影響を受けたものでないことを私は切に望んでいます。



結論として、私は最後に、日米の研究者の間の真摯な、一連の討論会の開催を提案します。テーマは、日本軍の慰安婦制度とは何であったのか、戦場の性処理問題の国際比較、現在の世界で繰り返されている深刻な人権問題、などについてです。討論は、証拠と論理に基づく冷静で学術的なものとします。

そうした場を日本の外務省がつくってもいいし、民間の財団が旗を振っていただいてもよいと思います。相手の視点から学ぶ相互対話が今ほどふさわしい時はありません。私達が力を合わせれば、21世紀を「希望の世紀」とすることができるはずです。

\*注記 この手紙の大部分は、日本語で、雑誌『正論』2015年7月号に掲載された。ただし、この英語の手紙は、アメリカの読者に向けてさらに手を入れて書き直したものである。